

## 第五福竜丸展示館 見学記



第五福竜丸の横で説明を聞く

4月18日、新木場・夢の島公園の一角にある第五福竜丸展示館に見学に出かけた。

展示館は、第五福竜丸をすっぽり覆うように急角度の三角屋根に造られていて、木立の中に建っていた。職員に説明を受けながら館内を見て廻った。展示物は漁船「第五福竜丸」、船の様々な付属品、多くの関係資料、ビキニ水爆被災に関する資料、国の内外の写真パネルなど多数である。船は木造船で、この程度の船でマーシャル諸島まで遠洋航海をしていたのかと驚いた。戦前、多くの漁船が近海の見張り船として徴用され、その半数の漁船が撃沈されたという。そのため戦後たくさんの中・小型漁船が建造されたが、第五福竜丸も1947年に和歌山県で建造されている。

アメリカが行ったビキニ環礁での水爆実験で、船の乗組員23人が被爆したのは1954年3月。船員の平均年齢は25歳、船長22歳だった。帰国後、収容された病院で無線長の久保山愛吉さんが亡くなった。乗組員や家族には3千通もの励ましの手紙が全国から届いた。

日本への原爆投下、すぐに水爆実験による三度目



原発のない未来へ!

の被爆。生活の不安。国民の怒りは各地で原水爆禁止運動の署名活動へと広がる。たくさんの署名簿も展示されている。こよりで綴じられた分厚い署名簿を見た時、託された核廃絶の強い願いを思った。また、第五福竜丸が操業していた時期に多くのマグロ漁船の船員も被ばくし、原爆症や差別に苦しんだ事実もわすれてはならない。

ビキニ水爆から14年が過ぎ第五福竜丸は「夢の島」に捨てられていたが、その消息がわかり報道されると、新聞に「沈めてよいのか第五福竜丸」という一人の若い会社員の投書が掲載された。この投書は大きな反響を呼び、保存運動が始まった。館が開館したのは1976年。公園の隅にひっそりと保存されている船は、原爆ドームと並ぶ「決して忘れてはならないあかし」(この言葉は投書した若い会社員の最初のフレーズ)だ。原子力の平和利用の名のもと、私たちは平和利用であれば良いと信じてきた。しかし福島県原発事故を知った今、原子力の恐ろしい力を本当に平和利用できるのか考えなければならない。

2018年7月～2019年3月まで改修工事のため休館。4月リニューアルオープン。

## 富士見市民ネットワーク インフォメーション

### 福島・会津の郷土料理はどんな味？

みんなで会津の郷土料理 ちまき・こづゆ(汁もの) を作って食べませんか  
会津出身の会員の方が教えてくれます。

日時 10月20日(土)10時～14時  
場所 鶴瀬西交流センター 調理室  
定員 20人  
材料代 500円

締め切り 10月10日(水曜日)



参加お申込み・お問い合わせは  
電話/049-255-4236 (大橋和子)

安心で暮らしやすいまちづくりのために、知恵を出し合い  
自ら考え行動する市民グループ、富士見市民ネットワー  
クにあなたも参加しませんか。(年会費 1500円)

## 富士見市民ネットワーク 通信 No.66/2018・9

住みよいまちづくりを わたしたちの手で!

発行 富士見市民ネットワーク

〒354-0017 富士見市針ヶ谷1-26-18 加藤方  
電話 049-251-8299

メール fujimi.c-net@jcom.home.ne.jp

### 住みよいまちづくりを考えよう パート12

## 子どもの貧困は改善したのか

子どもの貧困は放置できないと、私たち富士見市民ネットワークは富士見市の子どもの実態を明らかにする重要性を訴えてきました。

ようやく国の法制化を受けて県、市も動き始めました。2017年3月、富士見市の実態調査の報告書が公表され、集計結果によると一般世帯の4.4%(39件)が生活困難層、何らかの公的支援を受けている世帯では36.4%(297件)が生活困難層になっています。改めて貧困とは、お金がない、人また地域のつながりが無い、自信がない状態といえます。

貧困の連鎖も指摘され、選択肢の乏しい子どもに寄り添えないか、子ども食堂、フードバンクに急速に注目が集まっています。何か自分たちにできることはないか、お腹を空かせている子に食べさせる、宿題の手助けする。それがコミュニティ食堂、子ども食堂の活動へと結びついています。

報告書の質問項目は「お子さんは一週間に朝食、夕食を何回食べているか」「誰と一緒に食べているか」など多岐にわたっていますが、朝食を食べていない世帯7.7%、夕食は2.6%と回答がありました。さらに子どもたちだけで53.8%、一人で10.3%と、欠食や孤食の家庭があることが浮かび上がりました。

根本的には、生活困難世帯に経済的支援、相談体制の充実などの必要がありますが、食堂づくり、運営を通じて、子どもの貧困に市民が関心を持つことが重要です。子どもは未来を担う大切な存在なのであります。

子どもがさびしさや空腹を満たす場所、いざとなったら頼れる大人がいることを知らせるため、歩きや自転車でいける距離に食堂が求められています。

市内の子ども食堂、コミュニティ食堂を紹介します。お近くの食堂に是非お出かけください。

### 富士見市 子ども食堂リスト

いっしょにたべよ	水谷公民館内	月1回第2木曜日 18時～20時	だれでも	子ども50円・大人200円/1食	ポトフ 049-251-1129	
いっしょにたべよ	COOPみらいみずほ台店2F	上記の翌々日 12時～14時	だれでも	子ども50円・大人200円/1食	ポトフ 049-252-5212	
キャロットくらぶ	針ヶ谷コミュニティセンター3F	月1回第2水曜日 17時～19時	限定的	子ども100円・大人300円/1食	キャロットくらぶ 049-251-8479	
みんなで食べよう!	市民福祉活動センターぱれっと	月1回程度 未定	だれでも	子ども100円・大人300円/1食	富士見みんなでプロジェクト 049-263-6951	
児童館 みんなでお昼ごはん	関沢児童館	夏・冬・春休みの1日 昼	だれでも	小学生50円・未就学児無料・中高生100円・大人200円/1食	関沢児童館・ポトフ 049-251-9786	

ある日の子ども食堂のメニュー

みんなで食事中♪

あれから7年

# 福島を訪ねて

大平山コミュニティ広場から請戸小学校を望む

2018年7月15・16日



車窓から海を見る

## 正確で敏速な情報を隠すのは誰か？

福島原発事故では、放射能の拡散状況を示す「スピーディ」の公表がされず、住民の避難の判断を狂わせた。浪江町では、避難バスはおろか情報すら入ってこなかった。その結果、住民は放射線量の高い地域へ避難するという真逆な失敗を招いてしまった。町としては二本松市へ避難したが、全国各地に町民の移住が続き、馬場町長は「ふるさとが分断されていく覚悟」はあるのかと問いつつ、今回の避難指示解除を受け入れた。町民への感謝料増額では東電に厳しく対峙した町長は、6月27日に思いを残し逝去した。今後は避難解除により各種補助金や猶予処置は廃止され、本当の自治能力が試される。避難民の帰還は、僅かな高齢者のみで、復興の担い手世代は未だ躊躇が続いている現状である。今後、原発被災地で幾つの自治体が存続できるのか不明だ。

去年は汚染地区を大きく迂回しての視察だったが、今年は大幅な避難解除を受けて福島から国道114号線を直進してこの浪江町を縦断して浜通りを目指した。

最初の川俣町は、昔は絹織物の集散地として発展した町である。今は人通りもなく、空き家となったホテルや織機工場が並び、休憩したコンビニエンスストアは、汚染処理作業員とダンプの運転手用で、昼食時間しか開店していない。施設の裏手の土地の放射能汚染は高濃度が確認された。帰還者は4%にも満たない。学校や保育園は高齢者施設への転用を考えているという話も聞いた。

浪江町の一部には居住制限区域・困難区域が存在する。この地域は開閉式バリケードが設置され、足元や車のタイヤからは高濃度の放射線が計測され、関係者以外は通行禁止となっていた。避難解除になっても、一時帰宅はしたも

の、環境や設備、生業への不安から、かえって永住帰宅を断念せざるを得ない現実もある。

浜通りは堤防工事が進み、海は視界から消えていた。延々と続く汚染土を詰めた黒色のフレコンバッグは、中間処理場へ再度の運搬を待ちながら周辺には雑草が生えている。何度となく持ち運びを繰り返すだけで、ダンプカーの往来は絶えることがないのだ。富岡町の街並は、ゴーストタウンで人影もない。駐停車禁止の6号線を原発の排気塔を見ながら道の駅よつくら港（いわき市）に到着。今回の視察研修を終えた。

私達の役割は、福島の実態を多くの人に知ってもらい、一緒に日本の原発の将来を考えることであろう。いつも事実が後から分かるという問題。情報が隠されているという側面を正していく努力がまだまだ必要なだと痛感した。本当に原発は安全・安価な電源なのか、多くの人は本当の結論をすでに持ちつつあると思う。

最後に、福島県人の忍耐強さと、辛抱強さを期待して復興を祈りたい。「安全神話」という錦の御旗の欺瞞が招いた事故により、故郷が犠牲になったこと。また、2年後のオリンピック・パラリンピックの聖火リレーが福島から出発するという世界を欺く安全宣言を、私は許す気持ちにはなれない。（服部）

## 便利さの中で立ち止まる

私は、被災地から約150キロ離れた中通りの玄関口、白河で生まれ育った。自然に恵まれ、春には山菜摘みや、ネコヤナギの咲く小川で魚とり。夏には、トンボとり。夜になると蛍が美しい光を放つ。秋には、栗拾いや茸とり。冬には、南天の実を目にした雪うさぎや、軒下にて

## 富士見市民ネットワークは、昨年引き続き会員に呼びかけ、福島を忘れない！全国シンポジウム実行委員会主催の「福島を忘れない！シンポジウム」に4名が参加しました。

1日目は被災された地区3箇所の現場報告と伴英幸氏（原子力資料情報室共同代表）による講演「福島原発事故はなぜ起きたか」でした。その後の交流会では、多くの方々がお話をしてくださいました。

2日目は現場視察。バスで福島駅から川俣町・山木屋小中学校・山木屋とんやの郷・浪江町津島地区・（車窓見学）今年入れた所・浪江町内（警戒区域外）・浪江町請戸地区・大平山コミュニティ広場・富岡さくらモール・道の駅よつくら港と回りました。



浪江町役場裏



## 福島視察を終えて

今回初めて出発日間に参加させてもらった。

避難解除がされても、7年経った今、避難解除がされても避難先での生活があり帰ってこられず、帰村するのは高齢者ばかり。多額の費用をかけて作った学校・プール等は、子どもが5名。5年後には使用する子どもたちがいなくなる。避難して家を建てるのには多額の補償金が支払われるが、帰村しても少しの補償金しか支払われない。まだまだ除染が完了していない地区。除染したまま山積みされている土の袋。まだまだ復興から程遠い現実がある。被災者の方々のことを思うと心が痛むことばかりだった。（福島）

**富士見市民ネットワークでは、4月に市内の放射能の測定を行いました。今回の福島訪問でも同様に値を測定したところ、福島市内の値が高いことが一目瞭然です。（どちらも地上100cmのところでの測定した数値です）**

富士見市内 2018年4月22日 晴れ/気温25度		福島県内 2018年7月15日 晴れ	
測定場所	測定値※	測定場所	測定値※
東通公園 入り口	0.047	川俣町の駅	0.12
東通公園 階段下	0.038	川俣町役場	0.29
西原公園	0.043	山木屋	0.6
みどりの散歩道「関沢」高いところ	0.036	とんやの郷への途中	0.124
みどりの散歩道「関沢」入り口	0.050	山木屋とんやの郷	0.068
唐沢公園	0.033	途中の国道114号(MAX)	4.4
松ノ木公園	0.039	浪江町津島地区	1.4
針小放課後児童クラブ横	0.048	浪江町内(警戒区域外)	0.85
南畑小学校	0.049	浪江町役場裏	0.075
鶴瀬西アルビス内公園	0.046	浪江町 請戸	1.08
貝渡の森公園	0.029	四倉道の駅	0.035
鶴瀬西図書館分館巡回ポスト前	0.068		
第2運動公園の隅	0.055		
羽沢2丁目自宅雨どい下	0.051		
針ヶ谷個人宅雨どい	0.061		
水子貝塚	0.044		

※測定値の単位はマイクロシーベルト/毎時

きたツララ遊び等など。この歳になると、そんな自然とたわむれた幼き頃の思い出が一段と懐かしさを増す。

被災後、その思いを胸に帰省し、山菜をたくさん摘んで帰ると、育ち盛りの子を持つ姪は、「食べられないよ。取ってこないで」と強い口調で言う。目に見えない、臭いのない放射線量に常に敏感で、不安でいる姪の思いが痛いほど伝わってきた。同時に私も空しく寂しかった。被災された方の「原発事故は、大地を穢す」という言葉そのものだった。

今回のシンポジウムで、被災地は避難で激変する住環境。故郷喪失。知らされていない汚染実態。賠償問題など、計りきれない問題を抱え不安でいることを話された。また、ある方が「原子力発電の安全神話を信じた」という話をされた。私は、その時ふと「東京オリンピック聖火ランナーを福島からスタートさせる」うらに、大きな安全神話が隠されているようで、素直に喜ぶことはできないと思った。

異常気象の報道が絶えない毎日。人は皆、当たり前のようにクーラーで涼む。排出される熱風アスファルトで覆われ、水撒きをするものなら熱くて大変！アラアラ何時からこんなになってしまったのかしら？あちこちに設置されたエスカレーター。24時間いつでも買い物できる店。自動販売機。電車の中では、皆の手に携帯電話。面倒なものは必要なく、便利で楽な道ばかり選んでいる。

**みんな、「立ち止まって！」**これじゃ電気はいくらあっても足りないよう。

あなたは「原発の安全神話」を信じさらに原子力発電の稼働を望みますか？（正木）